

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：32808

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26350943

研究課題名(和文) 共生の地域コミュニティづくりと育児・子育て環境構築についての縦断的研究

研究課題名(英文) A Study of Organizing the Coexisting Local Community

研究代表者

汐見 稔幸 (SHIOMI, TOSHIYUKI)

白梅学園大学・子ども学部・教授(移行)

研究者番号：70146752

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：地域は年々そのつながりを失ってきている。コミュニティを再構成するために、小平市の東地域で核となる2つの保育所が、子育て支援を軸にどのように地域を変える可能性があるかを探ることを目的として研究を行ってきた。

1974年、2011年そして2017年の調査によって、育児・子育て環境が大きく変わってきたことを明らかにし、保育所地域づくりの実践的な課題を提示した。保育所や地域の人々との協力で進めてきた「育児・子育て学校」は、保護者が参画する子育てカフェへと発展し、保育所を基盤とした共生のコミュニティづくりの足掛かりとなった。当初の目的に照らして考えると、小平市全体の地域づくりへ発展させる契機となった。

研究成果の概要(英文)： Many communities are losing the relationships or bonds among their residents all through Japan. To reorganize such situation of the communities, we started to study about the possibility of changing the situation with two day care centers in east part of Kodaira City in Tokyo. Then other three day care centers joined us.

We compared the three results of research taken there in 1974, 2011 and 2017. We found that the situation of parenting and child-raising changed greatly for these 40 years. We presented the practical issues of community building by day care centers. We also moved "the school of parenting and child-raising" forward with nursery school teachers and community people. It has been developing into 'parenting cafe;' which mothers or fathers take part in. The result of the study gave us the possibility of harmonious community building based on day care centers. This result also gave Kodaira City the way of community building.

研究分野：教育学

キーワード：子育て環境 シビルミニマム 子育てカフェ 就労形態 世代間交流 縦断的研究

## 1. 研究開始当初の背景

東京都小平市は都心から1時間の距離にあり、1970年代以降都心で働く労働者のベッドタウンとして人口が増加してきた。その結果小平団地をはじめとした公営の住宅、あるいは集合住宅などが建設され、保育園や幼稚園等の建設がすすんだ。

そうした状況について1974年に「子どものシビル・ミニマム研究会」が実施した「乳幼児の生活実態調査」が当時の状況を詳細にまとめていた。

それから40年近く過ぎ、地域のコミュニティが弱体化し、子育て環境が大きく変化してきているという状況があった。一方で保育園が果たす役割が大きく変化してきているという状況があり、保育園と地域との関係が問われてきているという状況も生まれてきていた。

また経済状況の変化の中で、現代は母親も働かなければならないという流れの中で、待機児問題が大きな話題となっている。これらについても何らかの展望が示されなければならないという状況がある。

## 2. 研究の目的

以上のような状況を踏まえて、「子どもの人権を守る地域コミュニティづくりと保育所の在り方に関する研究会」(以降「保育所の在り方研究会」)が、2011年に「乳幼児の生活実態、子どもを取り巻く地域環境、社会資源、育児・子育て意識等の調査」を実施し、1974年の調査との比較研究を行い、その結果を報告した。

本研究は、上記の「保育所の在り方研究会」として、2つの調査をさらに分析すると同時に、2011年の東日本大震災において地域コミュニティの持つ重要性が再認識されることになったのを視野に入れながら、どのようにして共生の地域コミュニティづくりをすすめるか、保育園の果たす役割は何か、どうしたらコミュニティを再生できるのか、等について明らかにしていくことであった。

保育所が子どもの発達を保證する場であることは言うまでもないが、家庭が孤立し、地域の間人関係が弱体化する中では、子どもを基盤としながら世代間の交流をすすめ、地域の再構築を行う機能を持つことも視野に入れた実践的な研究が必要になってきていると思われる。

## 3. 研究の方法

2014年から研究がスタートしたが、第一に2011年調査に協力してくれた該当地域の2つの保育園の協力を得て、「育児・子育て学校」を実施し、子育て中の保護者を具体的につかんでいくことを目標とした。

そのために小平市内の学園東町及び鈴木

町等、1974年調査の対象となった地域に生まれてくる子どもたちとその保護者に対して、子育て応援広報紙を発行して、情報提供を行うこととした。

第二として、1974年調査と2011年調査の比較研究を深めると同時に、2011年に起きた東日本大震災を踏まえて、新たな項目を加えた調査を行い、3調査の縦断的な研究をすすめることとした。またその結果について地域に還元し、地域の課題を克服することに資することを目指した。

第三として、保育園が子育て支援を行いながら、地域づくりのセンターとしての機能を果たすと同時に、地域資源の獲得につながる仕組みを構築できるようにすることを目指した。

## 4. 研究成果

2011年調査によって、1974年から37年たつて、地域の子育て環境が大きく変化したことが明らかになったことを踏まえて、次のステップをどのようにすすめるのかが課題であったが、2014年からの研究において、次の3点が見えてきた。

第一に、研究以前は2つの保育園であったが、この間に3つの保育園が加わり、文字通り地域ぐるみで取り組むことによって、地域を変えていく条件が整ってきたこと、それを研究を通して作り上げてきたことである。

第二として、保育所の協力を得て行ってきた「育児・子育て学校」が、自立的な「子育てカフェ」へと展開しつつあるということである。特に地域の民生児童委員や社会福祉協議会の担当者、あるいは児童養護施設の職員などが参加してきていることが特徴的である。

第三として、3回にわたる同一地域の調査で、地域の課題だけでなく、子育てや生活の課題、そして課題の解決の手立てが見えてきたことである。

第四として、こうした地域の課題解決に対して大学がどのように関わっていくのか、その道筋を明らかにしたことである。2017年度で終了した本研究は、2018年度以降白梅学園大学地域交流研究センターが引き継いで対応し、地域との関係も継続することになっている。

なお大学としては小平市だけでなく、近隣の自治体との連携も視野に入れながら地域づくりに取り組んでいる。その中心となるのが地域交流研究センターであり、今後は大学として小平市の東部地域における保育所を基本としたネットワークづくりを進めることになる。

白梅学園大学地域交流研究センターでは、大学が位置する市の西部地域において小平西部地区地域ネットワーク(以下「小平西ネット」)をすでに組織しており、顔の見えるネットワークづくりに取り組んできている。今

回の「子育て環境の縦断研究を踏まえた地域子育てコミュニティづくりに関する研究」はこうした地域のネットワークづくりを広げていく契機になるものと位置付けている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

瀧口優、子どもの権利条約から見た日本の行政の子ども観、白梅学園大学短期大学教育福祉研究センター年報、査読あり、No.22、2017、pp39～46

金田利子、世代間の区切りは年齢だけでよいか - 社会的な生活条件による生活的関係の型の考慮を、日本世代間交流学会誌、2018、pp.3～13

[学会発表](計4件)

金田利子、遊びによる子供の育つ地域環境作り1、日本保育学会、2017

金田利子、Intergenerational Care and Education in Japan - In Terms of Reciprocal Benefit during Life-long Development-, OMEP the 69<sup>th</sup> World Conference in Croatia, 2017

加藤洋子、草野篤子、金田利子他、東京都小平市学園東地区における育児・子育て環境の変化、日本家政学会、2017～2018

加藤洋子、子育て環境の縦断研究を踏まえた地域子育てコミュニティづくりに関する研究、日本社会福祉学会、2017～2018

[図書](計7件)

汐見稔幸、瀧口優、加藤洋子、源証香、金田利子、草野篤子、佐野英司他、共生の地域づくりと育児・子育て環境構築についての縦断的研究「育児子育て調査2011年」、平成26年度～29年度科学研究費補助金(基盤形成C)研究成果報告書、2017、195

汐見稔幸、瀧口優、加藤洋子、源証香、金田利子、草野篤子、佐野英司他、1974年子どものシビルミニマム調査と2011年育児・子育て調査との比較研究、平成26年度～29年度科学研究費補助金(基盤形成C)研究成果報告書、2017、130

汐見稔幸、瀧口優、加藤洋子、源証香、金田利子、草野篤子、佐野英司他、1974年子どものシビルミニマム調査と2011年育児・子育て調査との比較研究、平成26年度～29年度科学研究費補助金(基盤形成C)研究成果報告書、2017、130

汐見稔幸、瀧口優、加藤洋子、源証香、金田利子、草野篤子、佐野英司他、共生の地域づくりと育児・子育て環境構築についての縦断的研究「実践研究」、平成26年度～29年度科学研究費補助金(基盤形成C)研究成果報告書、2018、95

汐見稔幸、瀧口優、加藤洋子、源証香、金

田利子、草野篤子、佐野英司他、共生の地域づくりと育児・子育て環境構築についての縦断的研究「2011年育児・子育て調査 乳幼児の生活環境の変化に関する分析、平成26年度～29年度科学研究費補助金(基盤形成C)研究成果報告書、2018、90

汐見稔幸、瀧口優、加藤洋子、源証香、金田利子、草野篤子、佐野英司他、共生の地域づくりと育児・子育て環境構築についての縦断的研究「育児・子育て調査2017年」、平成26年度～29年度科学研究費補助金(基盤形成C)研究成果報告書、2018、185

汐見稔幸、瀧口優、加藤洋子、源証香、金田利子、草野篤子、佐野英司他、共生の地域づくりと育児・子育て環境構築についての縦断的研究「1974年子どものシビルミニマム調査と2011年・2017年育児・子育て調査との縦断的研究」、平成26年度～29年度科学研究費補助金(基盤形成C)研究成果報告書、2018、125

草野篤子他、世代間交流の理論と実践 - 世界標準としての世代間交流のこれから、三学出版、2017、266

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

汐見 稔幸 (SHIOMI, Toshiyuki)  
白梅学園大学子ども学部大学院教授  
研究者番号：70146752

##### (2)研究分担者

源証香 (MINAMOTO, Satoka)  
白梅学園短期大学保育科講師  
研究者番号：00460288

##### (3)研究分担者

瀧口 優 (TAKIGUCHI, Masaru)  
白梅学園短期大学保育科教授  
研究者番号：40320759

##### (4)連携研究者

加藤洋子 (KATOU Youko)  
洗足こども短期大学・幼児教育保育科教授  
研究者番号：40455019

##### (5)研究分担者

杉本豊和 (SUGIMOTO, Toyokazu)  
白梅学園大学子ども学部准教授  
研究者番号：70339513

##### (6)研究協力者

草野篤子 (KUSANO, Atsuko)

##### (7)研究協力者

佐野英司 (SANO, Eiji)

##### (8)研究協力者

金田利子 (KANEDA, Toshiko)

(9)研究協力者

篠崎純子(SHINOZAKI, Junko)

(10)研究協力者

榎田光代(ENOKIDA, Mitsuyo)

(11)研究協力者

渡邊真理子(WATANABE, Mariko)

(12)研究協力者

福田陽子(FUKUDA, Youko)